

1 学力向上・体力向上・人間性を育てる教育の推進

めざす姿

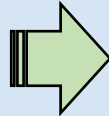
子どもたちに確かな学力や豊かな心、体力など社会で自立して生きる力が身についている。

指標名	推移					目標		
	H27	H28	H29	H30	R1	→	→	R5
標準学力調査の目標値を上回った教科数、全国学力・学習状況調査の全国平均を上回った教科数の割合	83.3%	83.3%	79.2%	66.7%	86.4%	→	→	80.0%

3年度の
ポイント

- ① ICT教育の充実
- ② 学力向上プログラム・外国語学習指導の充実
- ③ 児童生徒の安全確保の充実
- ④ 特別支援教育の充実

駒ヶ根市学力
向上
検討委員会



二つのアルプスと子どもたちの笑顔が映えるまち
駒ヶ根市学力向上プログラムの実行
～子どもたちに夢を 自尊感情と自己肯定感を～

① ICT教育の充実

拡充

【予算額 33,427千円】

- 一人一台端末の本格稼働(2,682台 小学校1・2年生 iPad、小学校3年生以上・中学生 Chromebook)
- 大型提示装置の導入(新規 小学校4～6学年の普通教室)(中学校普通教室は導入済)
- 教員の指導力強化と校務支援 (ICT支援員業務委託、校務支援システムの導入)
- ICT教育運用・保守等委託(校内LAN・ハードウェアの障害対応、フィルタリング)

② 教科指導の強化

継続

【予算額 25,248千円】

- 指導主事の配置[子ども課:1名]
- 専科教員の配置[中学校:3名]国語・英語等の個別教科の充実
- ALTの配置[3名]小学校外国語活動・中学校英語教育の支援充実
- 英語教育コーディネーターの配置[ALT兼務1名]小学校外国語活動拡充に対応

③ 不登校児童・生徒の居場所づくり

継続

【予算額 18,712千円】

- 指導主事の配置[子ども課:1名]
- 生徒相談員の配置[中学校:3名]
- 子どもと親の相談員の配置[小学校:2名]
- 不登校生徒支援員の配置[中学校:1名]
- 中間教室適応指導員の配置[子ども課:1名]

④ 学習習慣形成

継続

【予算額 33,862千円】

- 特別支援教育支援員の配置[小学校:15名、中学校:2名]
発達特性のある児童・生徒への支援、個別指導の充実、要介助児童・生徒の対応

⑤ 標準学力調査・集団適応調査

継続

【予算額 3,733千円】

- CRT調査 【予算額(内訳) 小636千円、中1,432千円】
 - ・ 全国学力・学習状況調査とあわせ小学校3年から中学校3年迄の全学年実施
 - ・ 小学校は国語・算数 中学校1年は国語・数学・理科・社会 中学校2・3年は国語・数学・理科・社会・英語
 - ・ 児童・生徒の成長の把握とつまずきの発見・克服、指導法の検討と授業改善
- QU調査 【予算額(内訳) 小1,095千円、570千円】
 - ・ 小中学校全学年基本的に年2回実施、学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定
 - ・ 学級経営の改善により、いじめ・不登校の防止と学力向上につなげる

⑥ 特色ある学校づくり

継続

【予算額 2,100千円】

- 各学校の教育目標の達成に向けた校長裁量予算
 - ・ 学力向上や指導力向上、地域に開かれた学校づくりなど、特色ある学校運営を校長のリーダーシップにより推進
 - ・ コミュニティ・スクールの導入促進、活動充実

⑦ 学校施設整備事業

新規

【予算額 82,246千円】

- 小中学校エアコン設置工事
- 東小地下灯油タンク改修工事
- 赤中エレベーター設置工事
- 赤穂学校給食センターエアコン改修工事(2系統分)

2 学校・家庭・地域社会との連携強化による教育力向上

めざす姿 地域社会全体で子どもの教育に取り組んでいる。

指標名	推移				目標		
	H25	H27	H29	R1	→	→	R5
家庭・学校・地域が協力して子育てをしている。	3.45 ポイント	3.45 ポイント	3.47 ポイント	3.50 ポイント	→	→	3.65 ポイント

- 3年度のポイント
- ① コミュニティ・スクールの推進(地域とともにある学校づくり)
 - ② 学校支援ボランティアの充実
 - ③ キャリア教育の推進

① 学校支援ボランティア

継続

【予算額 1,877千円】

- 放課後学習支援
- 授業支援
- 外国語活動支援
- クラブ活動支援
- 本の読み聞かせ支援



キャリア教育(アントレプレナー)

② キャリア教育の推進

継続

- 産学官の連携強化(キャリア教育推進協議会)
- 職場体験学習
- JICAの学校交流事業

③ 家庭学習の充実

継続

- 「駒ヶ根市家庭学習の手引き」活用と見直し
- 保護者との連携強化

④ コミュニティ・スクールの推進

継続

【予算は「特色ある学校づくり事業」で配分】

- 【継続】赤穂小学校・赤穂東小学校・赤穂南小学校・中沢小学校・東伊那小学校
- 【継続】赤穂中学校・東中学校

3 生きる力の基礎となる学校食育の推進

めざす姿 正しい食の知識と食習慣を身につけて生活している。

指標名	現状						目標		
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	→	→	R5
朝食を毎朝食べる児童・生徒の割合	(小学校) 95.7%	(小学校) 95.7%	(小学校) 95.5%	(小学校) 95.4%	(小学校) 95.6%	(小学校) 95.4%	→	→	(小学校) 97.0%
	(中学校) 91.8%	(中学校) 90.1%	(中学校) 90.7%	(中学校) 89.9%	(中学校) 89.6%	(中学校) 89.7%			(中学校) 94.0%
	(小学校) 50.0%	(小学校) 52.7%	(小学校) 46.0%	(小学校) 48.9%	(小学校) 53.9%	(小学校) 51.4%			(小学校) 70.0%
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をとる児童・生徒の割合	(中学校) 53.7%	(中学校) 48.7%	(中学校) 47.8%	(中学校) 51.0%	(中学校) 53.6%	(中学校) 54.2%	→	→	(中学校) 60.0%

3年度のポイント ① 「お弁当の日」の推進

① 学校食育の推進

継続

【予算額 187千円】

- 「お弁当の日」のお弁当作り
- 食育授業

② 実態調査

継続

- 食生活実態調査

基本構想 2-2	健やかな育ちを支える幼児教育を推進します
総合戦略 3-(3)	子育て支援・・第3子以降に照準、自然を武器に子育て環境イメージアップ策に重点

R03.2
子ども課

1 体力向上・自然体験の推進

めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが体を使った遊びを行い、体力・運動能力が身についている。 ●子どもたちが自然に親しみ、創造力や豊かな感性が身についている。
------	--

03年度の ポイント	① 子どもの体力向上の推進 ② 自然体験事業の推進
---------------	------------------------------

① 子どもの体力向上の推進 継続

○保育園・幼稚園における運動遊びの推進

子どもたちの体力や運動能力を高めるため、日常の保育の中に運動あそびを取り入れるとともに、親子で体を動かすことを楽しむ機会を提供し、保育の質の向上を目指します。

② 自然体験事業の推進 継続 【予算額 427千円】

○親子自然体験事業の実施

人間形成の基礎づくりの幼児期に、社会性や独創性、おもいやりの心を育むための自然（生活）体験を実施します。親子の参加により子ども、親同士の交流をはかり、また、他の親子の姿を見るなかで、子や親の立場で基本的な生活習慣を見直す機会を提供します。

・市内公立、私立13園にて年長児を中心に親子での自然体験事業について、体験材料その他の経費について市が負担を行います。

・信州型自然保育の認定を公立10園、私立保育園2園、私立幼稚園1園で受けました。引き続き、十二天の森等を利用し、駒ヶ根版自然保育に取り組みます。

2 地域に根ざした特色ある園づくりの推進

めざす姿 ●地域の特性を生かした保育がなされ、園児が毎日楽しく登園している。

公立・私立保育園幼稚園の入所状況と今後の予想(各年4月1日現在) (単位：人)

	H29	H30	R01	R02	R03
公立保育園(8園)	631	630	622	597	624
私立保育園(2園)	164	179	177	187	182
公立幼稚園(2園)	83	85	71	77	72
私立幼稚園(1園)	78	72	67	65	64
合計	956	966	937	926	942

03年度の
ポイント

- ① 未満児保育料軽減の継続
- ② 幼児教育無償化の実施
- ③ 未満児保育受入れの拡充

① 未満児保育料の軽減 **継続**

- 少子化対策として、同時入所でもなく、第3子の軽減を50%、第4子以降の保育料について引き続き無料とします。
- 未満児保育料について、各層上伊那の市町村と同程度に軽減し、育児と仕事の両立支援につなげます。

<国の制度>

- 子どもが同時入所の場合、第2子半額、第3子以降無料。
- 年収360万円未満の世帯について、多子計算に関わる年齢制限を撤廃し、第2子の保育料を50%軽減、第3子以降の保育料を無償化。
- ひとり親世帯等の保育料負担軽減として、年収約360万円未満のひとり親世帯の第1子の保育料を市町村民税非課税世帯並に軽減、第2子以降の保育料を無償化。
- 市町村民税非課税世帯の第2子保育料無償化。

② 幼児教育無償化の実施 **継続**

- 3歳から5歳までのすべての子ども及び0歳から2歳までの住民税非課税世帯の子どもについて幼稚園、保育所、認定こども園の費用を無償化します。
- 3歳以上児の副食費について市で1,500円負担するとともに、同時入所に関係なく第3子以降の副食費を無償化します。

③ 公立保育園・幼稚園の運営 **拡充** 【予算額 356,565千円】

- 嘱託保育士・教諭・調理員報酬 54名分 145,641 千円
- 臨時保育士・教諭・調理員賃金 71名分 92,378 千円
- 給食賄材料費、教材他消耗品 55,159 千円
- 未満児入所数 R02:157名 ⇒ R03:190名 33名増(公立のみ)
(0歳児：R02 11名 ⇒ R03 13名)
(1歳児：R02 68名 ⇒ R02 78名) (2歳児：R02 78名 ⇒ R03 99名)
- スチームコンベクションオープンの導入(リース) 795 千円
(赤穂保・飯坂保・すずらん保・東伊那保) (3年目)
- エアコンの導入(リース) (2年目) 5,060 千円

決算額の推移

(R02は見込み 単位 千円)

H29	312,157
H30	310,289
R01	325,488
R02	343,772

④ 私立保育園・幼稚園の運営のための支援 **【継続】** 【予算額237,926千円】

- 私立保育所・幼稚園運営費 220,358千円 (R02 233,743千円) 国1/2 県1/4
 - ・入園児童数 年間延べ3,186人 (R02 3,317人)
- 未満児入所数 R02:57名 ⇒ R03:62名 5名増 (私立保育園のみ)
 - (0歳児: R02 10名 ⇒ R03 11名)
 - (1歳児: R02 23名 ⇒ R03 23名) (2歳児: R02 24名 ⇒ R03 28名)
- 私立保育所・幼稚園特別保育事業補助金 (単位:千円)

	福岡保育園	桜ヶ丘保育園	聖マルチン幼稚園	備考
延長保育事業	4,000	4,000	-	国県補助2/3
一時保育促進事業	1,200	-	1,000	国県補助2/3
乳児保育	510	510	-	県補助1/2
その他特別保育事業	470	240	-	
合計	10,930	5,750	1,000	

決算額の推移
(R02は見込み 単位 千円)

H29	166,388
H30	174,236
R01	174,676
R02	250,478

⑤ 未就園児童の子育て支援等 **【継続】** 【予算額55,737千円】

- 利用者数の推移 (R02は見込み 年間延利用者数: 子供の人数)

年度	H27	H28	H29	H30	R01	R02
きつずらんど	3,834	3,302	2,327	2,747	3,710	1,600
まあるくなあれ♪	-	2,628	6,790	6,893	6,710	3,800
一時預かり事業	1,366	1,105	1,189	1,137	1,000	890

決算額の推移
(R02は見込み 単位 千円)

H29	49,148
H30	56,875
R01	59,998
R02	56,855

- きつずらんど、まあるくなあれ♪事業

駅前アルパ「きつずらんど」、経塚支援センター「まあるくなあれ♪」を設置し未就園児親子の交流支援を図ります。

- 乳幼児一時預かり事業

引き続き市内医療機関と連携し、8ヶ月未満の乳幼児の一時預かりを実施します。

- 世代間交流事業(おじいちゃん先生)

- 病児・病後児保育事業

児童が病気の治療中又は病気の回復期にあり、集団保育等が困難で、かつ保護者の就労等により家庭での保育が困難な際に、市内医療機関併設の病児保育室において児童を一時的に預かり、子育てと就労の両立の支援を図ります。

3 体験を通した幼児の食育の推進

めざす姿

- 家庭と共に園児が、望ましい食生活習慣や基本的なマナーを身につけている。
- 旬の食材や行事食などに関心を持ち、体験から「食」を楽しむことができる。

① 園児への体験機会の提供 **【継続】**



園での野菜作り、収穫した野菜の調理体験、給食での行事食や郷土食の提供、親子クッキングなど、体験を通じた園児たちの食への関心を高める取り組みを進めます。

② 家庭と共にすすめる食育



園児が望ましい食生活習慣や生活リズム、マナーなどを身につけるために、園の給食や給食日より、親子クッキング等で、共食や朝食の大切さなどの啓発を行います。

基本構想 2-3	子育てによるこびを感じる家庭づくりを進めます
総合戦略 3-(2)	妊娠、出産支援・第2子第3子を生みやすい環境整備

R3.2
子ども課

1 家庭の子育て力の向上

めざす姿
 ・いつでも安心して子育てできる環境が整っている。
 ・いつでも子育て情報を得ることができ、支援サービスが受けることができる。

	推移						目標	
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R5
安心して子育てできる支援が整っている(ポイント)	-	3.14	-	3.16	-	3.25	-	3.46
子育てが楽しい人の増加(%)	59.0	46.4	45.3	46.3	-	50.0	-	60.0

3年度のポイント
 ①放課後児童対策の充実
 ②子育て支援サービスの活用

① 子ども交流センター・子どもクラブの運営 **継続**

保護者が勤務等で家にいない児童の放課後の安全な居場所や健全な遊び場を提供する。
 ◆児童厚生員等の報酬、施設維持費等【予算額 28,282千円】

◆子ども交流センター利用状況（4館※の平日1日平均利用人数）

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2 12月時点
人数	143.8	156.0	140.9	168.7	173.8	127.7

※すずらん・三和森・赤穂東・みなみ子ども交流センター



<すずらん子ども交流センター>

◆子どもクラブ利用状況（2館※の平日1日平均利用人数）

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2 12月時点
人数	22.8	21.6	22.4	34.1	32.4	20.1

※中沢・東伊那子どもクラブ



<東伊那子どもクラブ（東伊那公民館）>

② 子育て家庭の負担軽減 **拡充**

- ◆ハッピーママサポート事業（家事援助支援等）【予算額 270千円（妊娠期から利用できるよう拡充）】
- ◆育児支援家庭訪問事業（虐待リスク等のある家庭への支援）【予算額 60千円】
- ◆子育て支援短期入所事業（子どもショートステイ事業）【予算額 86千円】
- ◆ファミリーサポートセンター事業（託児）【予算額 2,210千円】

④ 子育て講座等の開催 **継続**

- ◆子育てサポーター養成講座
- ◆ファミリーサポートセンタースキルアップ講座



<ファミリーサポートセンター事業による託児>

⑤ 子ども・子育て会議の開催 **継続**

- ◆委員報酬【予算額 156千円】



<子育てサポーター養成講座 専門職等による各講義(7日間・全26時間)>

2 健やかな子どもの成長とその家庭に対する支援の充実

めざす姿

- ・いつでも子育てに関する相談をすることができている。
- ・児童虐待のない、不登校とならない家庭生活が営まれている。

	推移						目標		
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R5
安心して子育てできる支援が整っている(ポイント)	-	3.14	-	3.16	-	3.25	-	-	3.46

3年度の ポイント	①相談支援の継続実施
	②発達障がいの可能性のある児童に対する支援の継続実施

① 子どもに対する相談体制の充実

継続

◆家庭児童相談員による相談業務

【予算額 7,150千円】

【家庭児童相談延べ件数】

内容	年度				
	H27	H28	H29	H30	R1
養護	965	1,037	750	735	797
育成	379	243	218	87	92
その他	689	472	117	42	57
合計	2,033	1,752	1,085	864	946

●性格や行動、心身の発達・障がい、家庭環境、虐待などの子どもに関する相談を受け付けます。
必要な場合は、児童相談所等関係機関へつなぎます。(児童虐待は、養護相談の中に含まれます。)

◆教育相談員による相談業務

【予算額 3,451千円】

【教育相談延べ件数】

内容	年度				
	H27	H28	H29	H30	R1
不登校	50	41	23	38	71
発達障害	175	139	176	131	114
就学指導	287	202	180	238	186
その他	170	181	102	230	165
合計	682	563	481	637	536

●いじめや不登校、就学に関する悩みなど教育に関する相談を受け付けます。

② 発達障がい児に対する相談業務・療育支援

継続

◆保育カウンセラーによる相談業務

【予算額 3,600千円】

【カウンセリング延べ件数】

内容	年度				
	H27	H28	H29	H30	R1
巡回相談	428	431	391	410	439
健診相談	17	70	10	3	11
その他	233	249	225	385	195
合計	678	750	626	798	645

●保育カウンセラーによる保育園・幼稚園の巡回相談や個別相談・発達検査などを実施することで、療育を必要とする子どもなどの支援を行います。



●児童相談所に通告・相談ができる全国共通の電話番号です。
●「189」にかけるとお近くの児童相談所につながります。
●通告・相談は、匿名で行うこともでき、通告・相談をした人、その内容に関する秘密は守られます。

3 地域ぐるみの子育ての推進

めざす姿

・子ども達が、地域で見守られ、
支えられて暮らしている。
・地域が主体的に子育て活動をして
いる。

3年度の
ポイント

子どもの外遊びや群れ遊びの実施

① ジュニアフレンドパーク事業

継続

【予算額 171千円】

◆子どもの居場所づくり

いきいき交流センター等を活用した子どもの居場所づくりを継続して実施するとともに、助産師や保健師を派遣して、身近なところで相談できる体制を整備し、子育て支援体制を充実させる。



<子どもの居場所づくり>

【子どもの居場所づくり実施状況】

団体名	活動場所	参加者数	登録者数	活動日・対象者	備考
ひらけごま	北原いきいき交流センター	6人	25人	活動日:毎月第1木曜日 午前10時～午後2時 対象者:0～3の子どもと保護者など	
馬場のあそびば	馬場倶楽部	4人	12人	活動日:毎週木曜日 午後4時～5時30分 対象者:小学生までの子ども	

◆プレーパーク

公園や広場を活用し、子どもたちや市民に外遊びや群れ遊びの大切さを伝えていく。

※プレーパークは、子どもたちが「やってみたい」と思うことを、なるべく自分の力で実現するための自由な遊び場です。たとえば、木登りや工作、水遊び・泥んこ遊びに焚き火もできる環境など、自然の中で体を使って、様々な体験をしながら思いっきり遊ぶことを目的とします。



<手作りブランコとハンモック体験>



<たき火で作る焼きマシュマロ>

基本構想 2-4	安心して産み育てることができる環境づくりを進めます
総合戦略 3-(2)	妊娠、出産支援・第2子第3子を生みやすい環境整備

R3.2
子ども課

1 妊産婦の健康増進

めざす姿 地域で安心な妊娠・出産ができています。

	推移				目標	
	H25	H27	H29	R1		R5
専門医や救急医療をいつでも受けることができる	2.92p	3.03p	3.11p	3.1p	→	3.41p
安心して子育てできる支援が整っている	3.20p	3.33p	3.44p	3.2p	→	3.75p

R3年度のポイント 妊娠期からの切れ目ない支援 保健指導の充実(専門職による対応の充実)

① 安心して子どもを産み、親として成長することの支援 継続

妊婦一般健康診査支援事業【予算額24,091千円】

- ・妊婦健診受診票の発行 1人当たり14回 126,790円
妊婦の健康管理の充実と経済的負担の軽減を図るため、県内の全市町村で統一した受診券方式による公費助成を行います。(県外医療機関での受診含む)

年度	H28	H29	H30	R1	R2
金額(千円)	27,628	27,675	28,927	24,430	24,000

(R2は見込み)

母親学級・パパママ教室・パパママライフプラン教室(拡充)

妊娠中の身体管理、親となる心構えと育児の実際を伝え、円滑な育児開始を図ります。

未熟児養育医療給付事業【予算額1,300千円】

出生後、指定医療機関へ入院し、養育を行う必要のある乳児に対して、医療の給付を行います。

妊婦歯科健診事業【予算額 252千円】

妊婦の健康管理の充実と経済的負担の軽減を図るため、受診券方式による公費助成を行います。

子育て世代包括支援センター

切れ目ない包括支援推進のため、関係機関との連携強化等支援の充実を図ります。

② 妊婦保健指導の充実 継続

妊婦の生活状況を把握しながら、妊婦健康診査の必要性、予防や健康的な生活習慣などについて保健指導を行います。支援の必要者には支援計画を作成し、医療機関等と連携を図りながら引き続き保健指導を進めます。

年度	H28	H29	H30	R1	R2
母子健康手帳の交付人数 (R2は見込み)	242	246	248	208	200

③ 産後ケアの充実 継続

<産後ケア事業> 出産後の育児や体の回復に不安のある母が、児とともに医療機関や助産所に宿泊や日帰りで滞在し、授乳指導や育児相談を受ける費用の一部を助成します。(R2は見込み)

年度	H29	H30	R1	R2
件数(件)	4(宿泊4)	3(宿泊3)	4(宿泊3日帰1)	5(宿泊5)
決算額(千円)	217	170	157	170

<母乳相談等事業> 育児不安、母の心身の回復、乳房マッサージ等、必要な保健指導を医療機関や助産所で受ける費用の一部を助成します。2,000円券×5枚 (R2は見込み)

年度	H30	R1	R2
交付実人数	268人(779枚)	222人(1069枚)	210人(1050枚)
利用実人数(利用枚数)	143人(318枚)	204人(270枚)	190人(250枚)
決算額(千円)	636	540	500

<産婦健康診査受診票の発行> 精神的にも不安定になりやすい産後間もないお母さんのこころと身体健康保持や産後うつ病の予防等、出産後の切れ目ない支援のため産婦健康診査の費用の一部を助成します。

④ ほほえみ支援(不妊に悩む方への支援) 継続

不妊治療費助成金

不妊に悩む夫婦の精神的、経済的負担を軽減するため、不妊治療に要する費用の一部を助成します。

年度	H27	H29	H30	R1	R2
件数(件)	19	35	29	39	30
金額(千円)	998	2,447	1,595	2,876	1,900

(R2は見込み)

2 乳幼児の発達に合わせた子育て支援

めざす姿 母親が楽しく子育てができ、すべての子どもが、健やかに成長発達している。

	推移						目標		
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2		R5
乳幼児健診の受診率	98.5	98.5	97.0	99.0	98.6	97.4	98.0	→	100.0
乳幼児の予防接種の接種率	94.2	94.2	95.7	96.2	94.7	93.6	95.0	→	100.0

R3年度のポイント 健診・相談の実施や安全な予防接種の推進等、母子の健康管理のための支援の充実
支援の必要な児への関係機関等との連携等継続した子育て支援

① 母子の健康管理の充実 継続

健診、育児相談

乳幼児期の成長発達を確認し、疾病等の早期発見、子育てに関する不安や悩みの軽減を図ります。

《健診》3ヶ月、9ヶ月、1歳6ヶ月、3歳
〈1歳6ヶ月児健診〉 (R2は見込み)

年度	H28	H29	H30	R1	R2
対象児数(人)	273	251	248	234	200
受診者数(人)	262	250	247	230	192
受診率(%)	96	99.6	99.6	98.3	96.0

《育児相談》 6ヶ月、12ヶ月、2歳3ヶ月
〈3歳児健診〉 (R2は見込み)

年度	H28	H29	H30	R1	R2
対象児数(人)	274	265	248	256	248
受診者数(人)	269	260	247	247	240
受診率(%)	98.2	98.1	99.6	96.5	96.8

乳児一般健康診査支援事業 【予算額1,198千円】

1ヶ月児健診の負担の軽減を図るため、受診券方式による公費負担を行います。

② 子どもを健やかに育てる環境づくりの推進 継続

市保健師や助産師、市内産科医療機関または助産所の助産師が全出生児対象に新生児訪問を行います。また、保健師・助産師・栄養士等の専門職が子育て支援センターに出向き、気軽に相談できる環境づくりに努めます。

③ 発達に偏りをもつ子どもの早期発見・早期療育の推進 継続

児童発達支援事業 【予算額33,629千円】

発達障がい等心身に何らかの障がいあるいは発達特性を有し、訓練を必要とする児童に対して、日常生活の自立及び集団生活適応力、社会力をつけるための個別、集団の療育訓練を行います。

〈児童発達支援施設つくし園 利用延人数〉 (R2は見込み)

年 度	H28	H29	H30	R1	R2
児童発達支援(乳幼児、園児)	3,061	2,421	2,818	2,319	2,000
放課後等デイ(学童)	232	413	349	370	340
保育所等訪問支援		7	9	7	20
タイムケア(障がい児の一時預かり)	165	392	496	226	60

5歳児園巡回事業

集団生活の中の子どもの様子を保護者と支援者が共有でき、その子に合った支援を考えていくきっかけ作りをします。その中で必要な子には受診やフォロー事業、就学相談につなげ、切れ目ない支援を目指します。

④ 食を通じた母子の健康づくりの促進 継続

乳幼児健診時などにおける相談、教室などを通じ栄養指導、食育の推進を図ります。

⑤ 安全な予防接種の推進 継続

【予算額 54,125千円】

疾病の発生及びまん延を予防し、子どもの健やかな成長支援を図ります。また、より安全で接種しやすい環境づくりのため、全ての予防接種を個別接種により実施します。

〈定期予防接種〉4種混合、2種混合、BCG、水痘、麻しん風しん、日本脳炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん、B型肝炎、ロタ

決算額(R2は見込み)

年 度	H28	H29	H30	R1	R2
金額(千円)	55,672	53,495	53,413	53,473	54,000